

平成29年度 第2回米子市社会教育委員の会 概要

日 時 平成30年3月19日（月） 10:00～11:30

場 所 米子市役所第2庁舎 3階 会議室

出席者

【委員（順不同）】

小谷 幸久委員（副会長）、内藤 英二委員、ト蔵 久子委員（会長）、實近 孝子委員

（欠席：村中 祥宏委員）

【事務局】

教育委員会事務局生涯学習課	片岡課長	
〃	生涯学習係	安田係長
〃	〃	橋本主任

1 開 会

2 委嘱状交付

全委員に、生涯学習課片岡課長から委嘱状を手渡しました。

3 委員紹介

全委員から、ご挨拶をいただきました。

4 役員選出及び役員あいさつ

委員の互選により、ト蔵久子会長、小谷幸久副会長が選出されました。

5 議 事

（1）委員の役割について

《事務局》

社会教育法、米子市社会教育委員に関する条例などをもとに、委員の方に期待されることを事務局から説明しました。

【（1）についての質疑応答】

《ト蔵会長》

ここに出席しておられる委員の皆さんは、それぞれの活動分野があります。専門とするそれぞれの分野の動きについて、共有、情報交換することができればより良いと思います。

(2) 29年度の活動実績について

《事務局》

主に昨年10月26、27日に米子市で行われた第40回中国・四国地区社会教育研究大会鳥取大会の開催実績などについて説明しました。

【(2) についての質疑応答】

《小谷委員》

今回、新たな任期となって初めての会ですが、前回おられた委員の方はどうなりましたか。

《ト蔵会長》

前回の委員構成から、3名減となっています。1名は事務局から依頼されましたが、辞退されました。残り2名はもともと公募委員でしたが、今回応募されず、さらに新規の応募もなかったため、結果的に3名少なくなっています。

《事務局》

応募がなかったのは、我々としても想定外でした。当然、ある程度の人数の皆様にご意見を交わしていただきたいので、今後再募集、選出団体への声かけなど検討したいと思います。

《ト蔵会長》

かつては、15名から20名ほどの委員数で会を開いていましたが、なかなか議論が深まらない、といったことがあり、10名前後の人数に落ち着いたところでは。

《小谷委員》

もう少し委員数がいないと、力が出ないような気がしますね。

《ト蔵会長》

今日の資料に他市の社会教育委員の名簿、推薦団体などが掲載されたものがありますが、これはどういったものでしょうか。

《事務局》

参考までに、他市の委員構成などがどうなっているのかをまとめたものです。確かに人数は多いです。ただ、それらの委員の普段の活動は分かりませんが、会の議事録を見ますと、やはりどうしても議論の内容がまとまらないまま終わっている、毎回決まった方が同じことを主張して終了、という会が多いようです。多ければよい、ともいいきれないところです。

《ト蔵会長》

ただ多いだけでも、困る点があります。多くの団体から委員推薦いただいても、団体の中で役員の変更があると、委員としての継続性が損なわれる、というデメリットがあります。確実な引継ぎがなされるという保証はありませんので、そのたびにまた一からの話になってしまうという感じですね。

《内藤委員》

各地区の公民館運営審議会、協議会をまとめる市全体の組織はないのですか。

《事務局》

各地区の組織を横断的に結びつける組織、機関はないです。

《内藤委員》

本来であれば、各地域の公民館運営審議会、協議会が講座などの企画をするわけで、そこがもっと前にでる必要があると思います。今、若干そこが置き去りにされているような気がします。そこから代表を出してもらって、委員に加わってもらい、もっと動いてもらうような仕組みを考えてもいいのではないのでしょうか。

《事務局》

他市の委員構成のなかに、地域代表という枠で選ばれた委員がおられます。これは今話題になっている、各地域の公民館運営審議会、協議会から選抜された方でしょう。大きな合併をした自治体の場合、旧町・旧村との地域的なバランスをとるために、そのような形で委員を選出していることがあるのではないかと思います。

《ト蔵会長》

公民館は、社会教育事業以外に色々な補助事務を受け持っていますよね。館の職員さんだけに頼っていたのでは、本来の役割であるはずの社会教育の推進という目的に向かっていくことが難しくなります。そうならないよう、地域の公民館運営審議会、協議会が活発に動く必要がありますね。

話題は変わりますが、大和、宇田川の両分館に一名ずつ増員になるのは本当ですか。

《事務局》

はい、そうです。両地区では、単独の自治連合会が立ち上がり、今後業務量が増えることが予想されますので、そこに合わせる形となりますが、30年度から一名ずつ職員が増える予定です。

《實近委員》

自分は地域の活動に色々関わっていますが、お手伝いできる部分はやらないと、職員の方も大変ですからね。

《内藤委員》

子どもを対象とした事業については、以前と比べて活動が少なくなっている、という傾向はありますが、確かに子どもが減っていますので、なかなか難しいです。

《小谷副会長》

住民の一人として公民館の講座に参加することがあります。地区内の学校や他の公民館に出向いて活動することもあり、活発にやっています。

《事務局》

事実、地域によって館が行っている業務に濃淡があります。求められていることが地域で異なります。それを改善することを目的に、例えば今手掛けていることから手を引いたとき、どのような反応が予想されるか、考える必要があります。

《小谷副会長》

ここまでが社会教育、ここからはまちづくり、といった区別は、現実には難しいですね。実際に人がずっと生活しているわけですから。

《内藤委員》

この会の委員は、推薦依頼を受けた各団体の会長が就任する必要がありますか。

《事務局》

いいえ、そのような指定はしていません。純粹にそちらの団体からどなたかを推薦してください、という依頼方法です。

(3) その他

特にありませんでした。

6 閉 会